

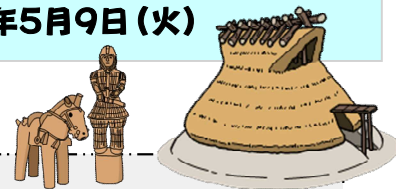


富士市立吉原北中学校 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年5月9日(火)



「自分の五感を使って体験することで、
当時の人々の生活を感じることができたと思います。」

富士市立吉原北中学校の1年生135人が、社会科の歴史の授業として、古代史の理解を深めるために、発掘調査と周辺遺跡の話、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つの体験を行いました。

発掘調査と 周辺遺跡の話

埋蔵文化財センターの仕事について話しました。発掘現場の写真を見ながら、興味津々で聞いていました。保存処理や整理作業など、様々な仕事があることを学びました。また、北中の周辺にも遺跡があることを知り、身近に歴史を感じていました。



「正直、めちゃくちゃびっくりしたし、ちょっぴり怖かった。人が偉い人を地面に埋めたと考えたら怖いと思った。しかも身近にあるなんて…」

石器の試し切り体験

鉄器が登場する前の古代生活を考えるとき、打製石器や磨製石器、黒曜石等の石器が重要であることを学びました。その後、黒曜石で野菜や紙を切ってみました。

「昔の人が使っていた石器を触ることができてうれしかった。すごく手間のかかっている武器を作っていてすごいなと思いました。黒曜石は鋭くて、いろいろな物が切れるので、便利だと思いました。」



土器の分類体験

縄文土器、弥生土器、須恵器などの土器の特徴を考えて、土器を分けてみました。



「時代によって土器の厚さや模様が違って、人の暮らしによって土器が変わっているのは、一つの工夫だと思った。」

焼き方の違いが、それぞれの特徴の違いになっていることを理解して、分けることが出来ました。

火起こし体験

初めは、古代からの火起こしの仕方である、もみぎり法や弓ぎり法などを紹介しました。次に、初めての舞ぎり法での火起こしです。コツをつかむのが早く、調子よく弾み車を回し火種を作っていました。火種を作った後は、フーフータイム。無事火を起こすことができました。余裕のある班は、もみぎり法や弓ぎり法にチャレンジ。残念ながら、火種は出来ませんでした。



「火起こしは、とても難しいことだと思いました。バランスが必要で、うまく回せなかったけど、とても貴重な体験が出来ました。」

先生方の感想

「古代史は自分の身近に感じにくいですが、実物に触れることで楽しく学ぶことが出来ました。また、自分の五感を使って体験することで、当時の人々の生活を感じることができたと思います。子どもたちからも、とても楽しく学べたという感想が多かったです。人数や時間など、急な変更にも対応していただき、ありがとうございました。」

